



むさしだい

学校だより9月号
平成28年9月1日
中野区立武蔵台小学校
校長 戸崎 晃

あきらめない心

～ 心と体を一体としてとらえて ～

校長 戸崎 晃

リオ・オリンピック。残り2秒、残り3秒からの逆転。最終種目での逆転。マッチポイントからの逆転。感動と尊敬の念を生み、子供たちにあこがれを抱かせる最後まであきらめない姿。オリンピック、スポーツとはこんなにも素晴らしいものなのかと改めて感じさせられました。

試合後、選手たちの言葉に共通する内容は、「最後まであきらめないで力を尽くしました。」というものでした。大人として、親として、教育者として、どんな逆境にあっても力を出し切り前向きに進んでいく【あきらめない心】を子供たちにはぐくみたい、と強く思いました。

できるようになりたい、試合に勝ちたいという気持ちはだれにでもあります。しかし、もうダメかな（できないかな、負けるかな等）と思う瞬間があります。そんな状況でもあきらめない心を生み出すもの、思い起こすもの、支えるものは何だろうと考えました。

リオ・オリンピックに向け、日本のレスリング選手は、世界一の練習、トレーニングを行ってきたと言っていました。激しい動きを繰り返し、試合中に相手が疲れて苦しそうにしても、日本の選手は表情に余裕があるように見えました。どんなにがんばろうと思っても、体力がなくなっていたら勝つための気力も失われてしまう…。あきらめない心には、最後まで力を出し切ることができるだけの体力が必要なのではないかと思いました。

また、たまたま見ていたニュースで、卓球の福原愛選手が中国ですごく人気があることを伝えていました。実力差のある選手との試合で、相手を0ポイントで終わらせず、サーブミスで1ポイントをあげたということが人気がある一つの要因だそうです。そのときの相手は、実力差を感じ、返球にも精度や力がなく、試合をあきらめている様子でした。その映像を見て私は、あきらめない心には、試合に勝てる・何とかなると思える技術を身に付けていることが必要だと思いました。

そこで思い出したのが「心技体」という言葉、そして、学習指導要領体育科の目標にある「心と体を一体としてとらえて」という言葉です。これは、児童の心身ともに健全な発達を促すためには、心と体を一体としてとらえた指導が重要であり、心と体の発達の状態を踏まえて、運動による心と体への効果、健康、特に心の健康が運動と密接に関連していることなどを理解することの大切さを示したものです。（この言葉は中学・高校にもある共通のもので。）

心を育てるためには、体を育てることも必要であり、両者が相まって初めてより良い人間形成が図られるというものです。

夏休みに入ってからすぐ、体力テストの結果が届きました。45%の児童が昨年の判定よりアップ、45%が同じ、10%がダウンという結果でした。また、昨年度に比べ、DE判定が減り、AB判定が増加、A判定児童数は2倍以上という嬉しい結果でした。これからも、体力向上を目指し、その向こうにある心の成長を見つめて運動に取り組んでいきます。10月には運動会。心身共に成長した児童の姿が楽しみです。